



補習校だより

平成24年度 第10号

平成24年6月9日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

校長携帯 917-521-5768

帰国を前に

校長 永井 晋



6月に入り、日本に帰国してしまう子どもが多くなってきました。全校朝礼であいさつをしてもらうことも少なくありません。「補習校のことは忘れません」「みんなやさしくしてくれました」「日本に帰ってから頑張ります」「ありがとうございました」等、みんなそれぞれの想いを伝えてくれます。その後保護者朝礼では保護者の方にもごあいさつをいただきます。補習校でのお子様の成長ぶりや帰国後のお子様の不安などを話されます。お話を伺っていて思ったことは、私は今は補習校で帰国する子どもを送り出す立場ですが、これまでそういった生徒を受け入れる側でした。日本人学校や補習校から帰国した生徒を受け入れたり、外国人の生徒を受け入れたりしました。中でも日本語の話せない外国人生徒の受け入れは大変でした。移民の国ではない日本では、日本語を学ぶためのカリキュラム（こちらでいうESL）が充実していません。というか、公立中学校には存在しません。あるのは公立では夜間学級のみです。私が勤務していた学校に日本語のまったく話せない外国人が転入してきたときには皆焦りました。そこで、体育や美術など身振り手振りでわかりそうな授業は出し、そのほかの授業は取り出して日本語を教えました。とは言っても、まったく日本語は話せませんから、それも身振り手振りです。机を指差し、「つ・く・え」、鉛筆を持って、「え・ん・び・つ」。ところが子どものすごいところは吸収が早いところです。休み時間は日本の子どもたちと一緒にしておく、みんな話しかけるんです。これがとっても良かった。その子供は半年もしないうちに日本語で授業を受けられるようになりました。

マイアミ補習校にいる子どもたちの中にもアメリカに来て同じような経験をした子どもたちがいるでしょう。逆に、こちらが長ければ長いほど、帰国した後、日本で同じような経験をするかもしれません。アメリカに永住の子どもたちは補習校がまさにそういう状態なのかもしれませんね。

いずれにせよ、どういう環境の子どもにも楽しい補習校でありたいと思っていますし、頑張っしてほしいと考えています。

現地校が夏休みになり、しばらくは子どもたちにとって補習校が唯一の学習の場になります。もう少しで補習校も夏休みになりますが、それまではしっかりと学習のできる環境を作ってあげていただきたいと思います。

また、先週は漢字検定が行われました。在米の子どもたちには難しい試験ですが、みんな頑張って受けていました。結果が楽しみです。

